

INTERVIEW

君津市国保小櫃診療所 管理者兼診療所長
望月崇紘 先生



医師人生、 チャレンジあるのみ!

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

初期研修中に地域医療を知る

山田隆司(聞き手) 今日(おびつ)は4月から千葉県君津市国保小櫃診療所の診療所長として赴任される予定の望月崇紘先生を訪問しました。先生は地域医療振興協会がオレゴン健康科学大学に開設した寄附講座の初代フェローとして2年間行かれ、昨年の夏帰ってこられたわけですが、今日はOHSUでのお話やこれから協会の診療所に勤めながら、こういったことを目指していけるのかを中心に伺いたいと思います。

まずはこれまでの経歴を簡単に紹介していただけますか。

望月崇紘 私は平成18年に千葉大学医学部を卒業し、最初は市中病院で広く学びたいと思って、大学とは関係ない茨城県の牛久愛和総合病院という

500床ぐらいの病院で初期研修を行いました。初期研修が始まる時点では自分が地域医療や家庭医療をやるとは思っていなかったのですが、初期研修中に縁あって宮古島の在宅専門クリニックで2ヵ月間、研修をさせてもらう機会がありました。その時に「何かを専門とするよりは、地域に出て行って家まで行って、その地域の中に入り込むというのは非常にいいな」と思いました。

山田 そもそも大学ではなく、総合病院に行こうと思ったのはどうしてですか。

望月 私の初期研修はスーパーローテートが始まって3年目で、どういう病院に行ったらいいのか、何が正解か、分からない時代でした。そこで大

学とは全く関係ないところで初期研修をして、それから大学に戻るつもりでいました。あまり東京から離れすぎず、でも都心だと病院によって得意・不得意があったりするかと思い、ちょっと田舎ぐらいのほうは何でも診られるかなと思いました。

上の先生からは「興味のある分野に行くといいよ」と言われ、何かの専門家になるのだろうと思っていましたが、なかなか専門が決まらずにいたところで、2年目の夏に宮古島に行って、これはいいなと思いました。旅行で行くのではなく、いろいろな土地へ行って、その土地の人と一緒に生活しながら医療をするのがいいと思って、後期研修を選ぶにあたって、インターネットで「地域医療」「家庭医療」「総合医療」とい

うキーワードで調べたところ、東京北社会保険病院(現 東京北医療センター)が引がかかったのです。

山田 東京北の総合診療のプログラムではなく、「地域医療のススメ」だったのですね。

望月 そうです。それで「ススメ」に入って3ヵ月経った頃に、東京北の総合診療科の飲み会でたまたま吉新通康理事長の隣の席に座ったのですね。その時に「協会が山北診療所の運営をすることになったのだけど行く？」と聞かれ……私はまだ2年間の初期研修が終わってすぐだったので、まさかすぐに行くこともないだろうと思って、「行きたいです」と言ったら、本当に山北診療所に赴任することになりました。

医師3年目で診療所長に

山田 山北診療所が開院したのは何月でしたか。

望月 12月です。

山田 6月の飲み会から半年足らずですね。その間は東京北の総合診療科にいたのですか。

望月 9月までは東京北の総診にいましたが、10月1ヵ月間は診療所を経験するために神津島に行きました。診療所を始めるにあたっては、いい勉強になりました。

山田 神津島から戻っていきなり山北診療所長に赴任したのですね。

望月 そうです、医者3年目です。

山田 「ススメ」の専攻医の中でも研修1年目で診療所長になった人はほかにいませんね。

望月 しかも診療所の開院からだったので大変でした。少し前まで初期研修医をやっていた人間がスタッフの面接もしたわけですから。

山田 では開設準備室の時期から赴任したのですね。

望月 11月1ヵ月間は開院準備にあてて、12月にオープンしました。

山田 山北診療所はそれまでも診療は行っていたのですか。

望月 2007年春まで10年くらい同じ医師がいたのですが、その先生が隣町で開業するというので辞めてしまい、医師不足で次の医師が見つからず1年半、閉院状態になっていました。それで私が2008年12月から診療所長として赴任して開けたわけです、当時はインターネットでも「学徒動員」と揶揄されたりしました(笑)。

山田 自治医大の卒業生は2年の初期研修を終えてすぐに義務で地域に派遣されたりするので、むしろそれが普通なんですけどね。でも先生がそういうふうにもう果敢に挑んでくれたのは本当に縁だったと思います。診療所長になっていかがでしたか。